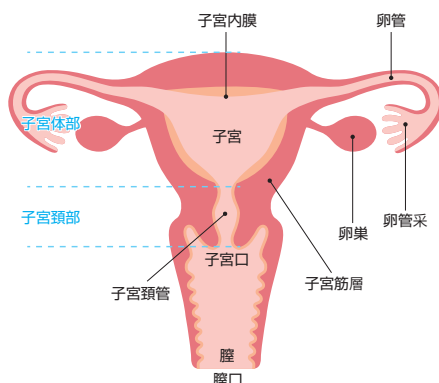


婦人科系検査に関係する用語について、以下で説明させていただきます。



子宮筋腫

子宮には「しこり」ができることがあります。その代表が筋腫です。子宮は筋肉の層、粘膜の層などに分かれています。筋肉の層の中にできる良性の腫瘍を指します。月経困難（生理痛）や不正出血、月経過多などの症状を伴うことが多いようです。出血が多くて高度の貧血をきたす場合は、ホルモン療法や手術の適応になります。

子宮腔部びらん

膣から続く、子宮の入り口の粘膜が「荒れている」ように見える（仮性びらん）または本当に荒れている（真性びらん）状態です。不正出血、接触による出血などの症状がみられますが、無症状の場合もあります。

子宮腫大

子宮が全体的に大きい状態を指し、その原因を調べる必要があります。

頸管ポリープ

子宮の入口の粘膜がキノコ状に発育したもので、子宮と膣の境目付近にあるものを指します。ほとんどは良性で無症状です。悪性化は1%以下といわれています。

子宮内膜肥厚

子宮内膜が厚くなった状態です。妊娠や子宮体がん、または子宮体がんに関連のある子宮内膜増殖症の可能性がありその原因を調べる必要があります。

子宮内膜症

本来子宮にしかないはずの子宮内膜またはそれに似た組織が、子宮以外の組織（卵巣、腹膜など）などに存在し増殖・剥離を繰り返す病気です。子宮以外の場所に存在する子宮内膜は腹腔内や卵巣にとどまり、炎症や癒着の原因になります。卵巣にできたものはチョコレート嚢胞になりやすいとも言われています。月経痛が代表的な症状です。

子宮腺筋症

子宮内膜またはそれに似た組織が子宮筋層にもぐりこんで増殖する疾患です。子宮内膜症に合併しやすく、その場合子宮全体が大きくなり、出血量も多く月経痛が重くなる傾向があります。

卵巣腫瘍

通常親指大くらいの卵巣が大きく腫れる状態を卵巣腫瘍といいます。良性、悪性を区別する必要があります。

卵巣嚢腫・嚢胞

卵巣腫瘍のうち、液体が溜まる症状があるものを卵巣嚢腫といい、卵巣腫瘍の80%程度を占めています。卵巣嚢腫の多くは良性ですが、まれにがん化するものもあります。

卵巣嚢腫の中で子宮内膜症が卵巣にできたものをチョコレート嚢胞といいます。通常、卵巣嚢腫は嚢腫の中味は透明な液体ですが、チョコレート嚢胞では血液などの成分が貯留しています。月経の際に剥がれた子宮内膜などが、卵管を通して逆流することで起こるとされています。閉経前の女性に発症し、不妊の原因ともされています。直径が5cm以上のものは破裂の危険性を避けるために治療が必要となる場合があります。

また、卵巣嚢腫のなかには時間の経過とともに消えるものがあり、それらを総じて機能性卵巣嚢胞といいます。

子宮内膜ポリープ

子宮内膜にできるポリープのうち、子宮頸部よりもう少し奥の方（子宮内腔）にできるものを指します。ポリープができてしまう原因は明らかではありませんが、炎症や分娩、流産、女性ホルモンの影響などが考えられています。症状は不正出血が主ですが、無症状のことも多いようです。不正出血の原因になったり悪性の可能性がある場合には摘出が必要になることがあります。

子宮頸部／膣部ナボット胞（ナボット卵）

子宮頸部には粘液（頸管粘液）を産生・分泌する頸管腺が存在しています。頸管粘液は排卵期に精子が子宮へ侵入するのを助ける働きがあります。頸管粘液の分泌腺が上皮に覆われて分泌物が排出できなくなり貯留した状態をナボット卵といいます。

バルトリン腺嚢胞

バルトリン腺は、性交時に潤滑油の働きをする粘液を分泌する器官です。その分泌液を排泄する開口部が膣の入り口の左右にあります。この開口部が炎症等により詰まって分泌液がスムーズに排泄できなくなると、粘液が溜まった嚢胞が作られる場合もあり、これをバルトリン腺嚢胞といいます。痛みや化膿を伴う場合は治療の必要がありますので婦人科を受診してください。

細胞診の判定について

頸部細胞診では結果をベセスダシステムで報告します。子宮頸がんやがんの前段階である異型細胞の有無を詳細に記述する報告形式です。NILM 以外の結果では精密検査や治療が必要です。

※「細胞少数」による判定不能について

子宮頸部細胞診の結果が「細胞少数」で判定不能となった場合、採取された細胞の数が少なすぎて正確な検査ができなかったことを意味します。今回の検査では判断が困難ですので、再検査を受けることをお勧めします。再検査の際には適切な検体を採取するために検体の採取法などを調整する可能性があるため、細胞少数のため判定不能であったことを必ず申し出てください。

	ベセスダシステム	
	推定される病理診断	略語
扁平上皮系	非腫瘍性所見 炎症	NILM
	軽度扁平上皮内病変の疑い	ASC-US
	高度扁平上皮内病変の疑い	ASC-H
	HPV 感染 軽度異形成	LSIL
	中等度異形成	HSIL
	高度異形成	
	上皮内がん	SCC
腺細胞系	扁平上皮がん	
	腺異型または腺がん疑い	AGC
	上皮内腺がん	AIS
	腺がん	Adenocarcinoma
	その他の悪性腫瘍	Other malignant neoplasms

体部細胞診の結果の見方

クラスⅢ以上は婦人科を受診して精密検査をお受けください。クラスⅡでも経過を注意深く観察するために再検査が必要な場合があります。

クラス判定	推定される病変	判定区分	
クラスⅠ	正常子宮内膜	陰性	異常なし：A
クラスⅡ	その他の非腫瘍性病変		軽度変化：B～C
クラスⅢ	子宮内膜増殖症などの疑い	擬陽性	要精密検査：D
クラスⅣ	子宮内膜腺がん疑い		
クラスⅤ	子宮内膜腺がん	陽性	



医療法人社団 同友会

Copyright2025 同友会グループ All Right Reserved.